◎全日本剣道選手権大会

令和七年十一月三日、日本武道館において開催されました。

出場選手　伊藤　雄平（岐阜県警察）

本大会は、前年度に引き続き、男女同時開催、また、令和八年五月には、第一回アジア・オセアニア剣道選手権大会が日本で開催されるということもあり、世界各国から観戦者が来場し、非常に注目度の高い大会となりました。

私は、幼稚園から剣道をはじめ、毎年の全日本選手権テレビ放送を楽しみに観ていました。「いつか自分もこの場所に立ちたい。必ず出場する。」そう心に決め、高校・大学共に厳しい環境へ進み、稽古に励んできました。本大会への出場が決まるまで、過去三回岐阜県予選会に挑んできましたが、一回目は初戦敗退、二回目は二位、三回目は三位となり、あと一歩のところで出場を逃してきました。今回も厳しいトーナメントを決勝まで勝ち上がり、本戦出場を決めることができました。

今大会初出場ということもあり、試合では、得意技を思い切って出し、楽しんで自分らしい剣道をしようと思い臨みました。結果は、一回戦延長の末、北海道警察の伊澤選手に負けました。序盤から技を多く出し、積極的な試合展開だったのですが、私が得意技の面を出そうとしたところを逆に出鼻面を打たれてしまいました。悔しい結果となってしまいましたが、また必ずこの舞台に戻ってきてリベンジしたいと強く思う大会となりました。

今回、全日本剣道選手権大会に出場するにあたって、改めて周りの支えがあったからこそだと感じました。現在に至るまで、私に剣道をさせてくれた両親や家族には、本当に感謝しかありません。また、指導してくださった先生方や共に稽古をしていただいた方々全てにも感謝いたします。ありがとうございました。

今大会を通じて学んだこと、感じたことを今後に生かし、さらなる高みを目指して精進していきます。今後ともご指導の程、宜しくお願いいたします。

◎全日本剣道女子選手権大会

令和七年十一月三日、日本武道館において開催されました。

出場選手　森園　華乃（法政大学）

日本の剣道大会の中で最高峰と位置づけられる大会であり、幼い頃から剣道を続けてきた私にとってこの大会に出場することが大きな夢であり、貴重な経験をさせていただきました。

結果は、一回戦敗退という悔しい結果でしたが、多くのことを学ぶことができました。相手は四回出場経験のある大阪府代表の藤崎選手でした。序盤は自分から積極的に攻め、技を仕掛けていましたが、相手は試合巧者であり、冷静に状況を見極めつつ好機を待つ戦い方が光っていました。十分の延長戦の末、わずかな隙を打たれてしまいました。一瞬の判断や集中力の差が勝敗を分ける舞台であることを痛感しました。

この大会を通じて勝ち負けだけではなく、所作や礼儀の重要性を改めて感じました。入退場の姿勢、試合前後の礼、相手を敬う態度など、どの選手も一本一本に真摯に向き合い、剣道が単なる勝負ではなく、人としての在り方を映し出す武道であることを実感しました。結果に関わらず、礼を尽くし堂々と立つ姿は、剣道の持つ大きな魅力であると思います。

また、真に強い選手とは、技が優れているだけでなく、周囲から応援される選手であることを感じました。全力で戦い、礼を尽くし、最後まで剣道を貫く姿勢があるからこそ、人は自然と応援したくなるのだと感じました。勝っても負けても、見ている人の心を打つことのできる剣道をすることが、剣道家としての価値であります。

夢だった全日本の舞台で得た悔しさと学びを糧に、勝敗だけで価値が決まるものではなく、自分自身を高め続ける過程そのものを大切にしていきたいと思います。技・心・礼を磨き続け、強さと同時に人から応援される選手を目指して、これまで支えてくださった多くの方々に恩返しができるようこれからの稽古に励んでいきます。会場や画面越しに応援してくださった多くの方々に、心より感謝申し上げます。

◎国民スポーツ大会第四十六回

東海大会

東海ブロック大会

令和七年八月十七日、静岡県武道館において開催されました。結果は、成年女子が四位、少年男子が四位、少年女子が四位でした。

選手

成年女子
先鋒　森園　華乃（法政大）
中堅　宮田　和枝（バロー）
大将　中川　節絵（岩野田小）

少年男子
先鋒　中村　武暉（済美）
次鋒　増田　篤豊（高山西）
中堅　淺田　真翔（中京）
副将　立山　智也（済美）
大将　藤森　良人（郡上）

少年女子
先鋒　烏山　煌月（高山西）
次鋒　川島萌々華（済美）
中堅　大野　夏鈴（高山西）